



第108号 2012年11月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

主な内容

聞きかじり歴史散歩⑧「高杉晋作史料をめぐる諍い」	P4
ズームアップ 波多野 篤(埼玉県)	P6
おとなのごちそう周 長岡 周吾(福岡県)	P7
むつみ豚 小野 靖広(萩市)	P8
作曲家 山本 和智(東京都)	P10
芸妓つね桃 坂倉 ゆう子(京都府)	P11

右側のおばあさんは見島の守永のばあちゃんといいます。90歳を超して少しわからないことが時々ありますが、元気で話し好きです。今年5月、見島のバードウォッチングに行った帰り、宇津の定期船乗場で「写真撮って！」と大きな声をしたので鳥を撮る500ミリレンズで遠くから連写しました。

このおばあさんの実家はマグロ釣り名人吉村恒満さん方で、最近一人息子を亡くされ大変気落ちされていました。私が小さい頃からよく褒めてくれるおばあさんでしたから、今回賞を取ったので、この写真を額に入れてあげようと思います。この写真で元気になってくれるといいのですが。(三谷)

しあわせ写真 元気の素



撮影／三谷栄治(萩市椿東、見島出身)

「しあわせ写真コンテスト」金賞(萩市社会福祉協議会主催)

来年の奇兵隊結成 150年に向けて

奇兵隊 隊服を再現!!



奇兵隊士(明治2年9月、下関で撮影)

全国晋作会連合会、山口県立大学、萩市の3者が協働し、奇兵隊の隊服を忠実に再現し制作することとなりました。

高杉晋作が文久3年(1863)6月7日に「奇兵隊」を結成して以来、来年で150年を迎えることから、新しい日本を創るために活躍した奇兵隊を顕彰するため、来年6月7日の奇兵隊結成記念日のお披露目を目指しています。

8月30日に、市役所で全国晋作会連合会の藤原弘毅会長(唐樋町)、山口県立大学国際文化学部の水谷由美子教授、野村萩市長が出席し、「奇兵隊隊服制作協定」の締結式が行われ、野村市長は「数奇な運命をたどり、維新の原動力

となった奇兵隊のことをしっかりと思い起こし、考えるきっかけとしたい」とあいさつしました。

今回再現される隊服は、奇兵隊の解散2か月前の明治2年(1869)9月に奇兵隊士7人が下関で、隊服以外にも私物の帽子やマフラーを身にかけて撮影した記念写真を参考に、県立大学の水谷教授と企画デザイン研究室の学生8人で制作します。

萩博物館の一坂太郎特別学芸員からは、「奇兵隊は5割が下級武士、4割が農民、残りは商人等で結成当時は、服装は統一されていなかったが、明治元年(1868)の戊辰戦争になると、軍服に統一された。日本で最も早く取り入れ

NHK 大河ドラマ 八重の桜 萩ロケ!

おぐりしゅん 松陰役に小栗旬、孝允役に及川光博

来年1月から放送される大河ドラマ「八重の桜」の萩ロケが、萩市民等から公募した70人のエキストラが参加し、10月10日～11日に萩市内で行われました。

今回、萩のロケーションに参加した俳優は、山本覚馬(新島八重の兄)役の西島秀俊さん、川崎尚之助(新島八重の1回目の結婚相手)役の長谷川博己さん、勝海舟役の生瀬勝久さんなどの皆さんです。

撮影場所は、江戸築地軍艦操練所の一角を設定した旧萩藩御船倉(浜崎町)、幕末海軍練習場横浜、ペリー来航の場面として萩城跡横の旧小浜キャンプ場周辺、幕末の京都の宿として菊屋家住宅、江戸・京都の設定で出演者が歩くシーンでは堀内の鍵曲でした。

八重の桜

幕末の会津藩(福島)に生まれ、後に新島襄(同志社大学を創設)の妻となった八重の波乱に満ちた生涯を描いた物語です。「これまでも数多く語られてきた明治維新の物語とは違い、敗れた側の会津の視点から、また、女性の視点を切り口に、新島八重の生涯を通じ、新たな幕末・明治像を見せていきます」

◆奇兵隊

1863年(文久3年)の馬関戦争の敗北をきっかけに創設した下級武士や農民、商人らで組織された西洋式兵制による軍隊で、最大時には隊士約500人を擁した。

■問い合わせ 萩市観光課 (08388-253139)

放送日程

今回、ロケーションで撮影されたシーンは特に萩の設定ではない場面として放送されますが、第1回(1月6日予定)「ならぬことはならぬ」では堀内鍵曲や旧小浜キャンプ場周辺、第2回「やむにやまれぬ心」と第5回「松陰の遺言」では旧小浜キャンプ場周辺、第6回「会津の決意」では、菊屋家住宅、旧萩藩御船倉の場面が放送される予定となっています。

ドラマの中で、吉田松陰は山本覚馬(八重の兄)、そして八重に影響を与える幕末の偉人として、佐久間象山(奥田瑛二)とともに描かれます。

■問い合わせ 萩市観光課 (08388-253139)



ロケ風景(御船倉・浜崎町) 勝海舟役の生瀬勝久さん(右)



萩の鮮魚を東京・築地へ直送 アンテナショップがオープン!



9月27日、東京都の築地場外市場に萩市と宇部市が連携したアンテナショップ「萩と宇部のおいしい魚屋 Bucch-ine (ブッチーネ)」がオープンしました。店名は、山口の方言の「ぶちいね」(とてもいいね)をイタリア風にもじったものです。

このショップは地域活性化コンサルティング合同会社五穀豊穣(東京、西居豊代表)が、日本海と瀬戸内海の魚を食べてもらおうと両市に呼びかけたことから始まりました。産地側が魚の価格を決め、消費者のニーズに合った大きさや種類を毎日直送するための仕組みで、地域の漁業を維持するための仕組みです。

オープンングセレモニーでは野村萩市長が「東京の人が知らない魚も多くある。ぜひ食べてもらいたい」とPR。オープン当日は、萩市出身者からなるボランティアグループ「萩大志館」による金太郎(ヒメジ)のオリブオイル漬けの無料試食も行われ、多くの人で賑わいました。

出店場所は1日に3万人が訪れるとされる築地市場。店は場外の目抜き通り沿いの約20㎡です。店内には「道の駅・萩シーマー」とから直送した10種余りの鮮魚のほか、醤油や蒲鉾、酒等の特産品が並びます。萩市場で早朝に競りにかかったアマダイやヒラマサ、イトヨリなどを冷蔵トラックで運び、翌朝には築地の店頭へ。卸業者を仲介しないため市価よりも3割ほど安く買うことができます。

鮮魚以外の特産品や水産加工品も充実。おすすめは、萩の地魚・金太郎をオイルで漬けた「オイル・ルーリュ」(790円)で、イタ



ブッチーネ
東京都中央区築地 4-16-2
(地下鉄日比谷線築地駅から徒歩5分)
☎ 080・7078・0407
営業時間 / 6:00 ~ 15:00
定休日 / 毎週日曜日、市場の定休日

リア風のサラダやパスタによく合います。

運営は五穀豊穣が行い、店舗には2~3人の従業員が常駐。道の駅・萩シーマーとで研修したスタッフや、調理法などを提案します。

西居代表からのメッセージ「関東ではなかなか手に入らない萩と宇部の恵みを取り揃えてお待ちしています。ぜひ、郷里の味をご家族、ご友人にお勧めください!」。

日本有数の逸品を一堂に、大阪から伝三郎のふるさと萩へ

萩博物館特別展

藤田伝三郎翁没後100年記念 藤田美術館の名宝 — 大茶人・藤田伝三郎の夢 —



藤田 伝三郎
1841~1912

藤田組を興した 関西財界のリーダー



こうちおがめこうち
交趾大亀香合 (17世紀)
伝三郎が亡くなる直前に、当時の入札価格の記録を破る9万円(現在9億円)という破格の値段で入手。

萩で誕生した藤田伝三郎は、明治維新後、大阪に出て藤田組をおこし、小坂・大森などの鉱山や児島湾干拓をはじめ、建設・鉄道・紡績・電力・新聞など多彩な事業を展開し、関西財界のリーダーとして君臨しました。伝三郎は古美術品に造詣が深く、特に茶道具に対してすぐれた鑑識眼をもち、名品の収集に努めるとともに、自らも茶道をたしなみました。

伝三郎が収集した藤田美術館所蔵の重要文化財5点を含む絵画や墨跡・茶道具など至宝54点を一堂に展示します。

■会期 11月3日(土・祝) ~ 12月9日(日)
▽前期 ~ 11月20日(火)、▽後期 11月22日(木) ~

◆図録の販売
本展図録(A4判カラー、52ページ)を萩博物館ミュージアムショップで販売(1500円)。

■開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
※会期中無休(11月21日(水)は展示品入れ替えのため企画展示室を閉鎖)

■観覧料 大人1000円、高・大学生600円、小・中学生200円

■問い合わせ 萩博物館 (0838・25・6447)

◆テレビ放映のお知らせ
NHK Eテレ「日曜美術館」

「破格のコレクター」大阪にあり、探訪! 藤田美術館の至宝 ~ (再放送)
11月4日(日) 午後8時~8時45分(山口県内) 放送予定日

てんまつ
この顛末

高杉晋作史料をめぐる諍い

下関市の宗教法人東行庵が、高杉晋作の曾孫勝氏と萩市に対し、「晋作史料の所有権は東行庵にある。萩博物館にある69点を返還せよ」と動産引渡等請求訴訟を

平成22年(2010)3月、山口地方裁判所下関支部に起こしたことは、驚天動地の出来事でした。山口地裁は、翌年9月「原告(東行庵)の請求を棄却する」と判決しました。

東行庵は広島高等裁判所に控訴し高裁もまた24年(2012)5月、「控訴を棄却する」判決を言い渡し、晋作史料は高杉家のものと認められたのです。それでも東行庵は上告中。では何故このような事態が起きたのでしょうか。全国に悪しき風評を撒き散らしたこの不毛の事件が、やがて風化し、また

歪曲されて後世に伝わらないよう、メモしておきます。

◆東行庵主と高杉家

維新回天に奔走した高杉晋作は、慶応3年(1867)4月、半年後の大政奉還を見ることなく29歳の若さで亡くなりました。遺体は、下関市の山県有朋夫妻が所有する「無隣庵」裏の清水山に埋葬されました。やがて「無隣庵」と

土地は山県から愛妾の贈り物に譲られた。藩主敬親が晋作の霊を慰め、藩主敬親が晋作のために立てさせた谷家の名跡を継ぎ谷梅処として晋作の霊を慰めました。梅処尼が明治42年に亡くなると、養女の谷梅仙尼が、梅仙尼が亡くなると、その養女谷玉仙尼が庵主となって霊を慰め、高杉家と親交し、昭和41年、玉仙

このように玉仙尼が庵主の時代までは、東行庵と高杉家は親密な関係にあったのです。

◆東行庵と高杉家の確執

高杉家は、150石取りの比較的裕福な家柄だったことから、晋作の幼児から没年に至る様々な遺品が残されました。それらは高杉晋作の「個人史」であると同時に、その時代を切り取った「時代史」でもあります。

晋作関連の史料は高杉家で代々受け継がれ、曾孫勝さんは、「所有権は当然のこととして深く考えたことなど無かった」といいます。ところが、玉仙尼がなくなり、谷家の係累でない住職が庵主に入るようになってから、東行庵の高杉家に対する態度が微妙に変化し、晋作史料に対する認識もまた変わってきたといえます。

平成12年、高杉勝さんは、東行庵に、「住職の変更は左右されない史料の保存体制を整えることと施設の改善を行うよう」求め、「駄目なら資料を移転することも考えている」と伝えたといえます。しかし、当時の住職と代表役員

は、史料の展示よりも墓苑の拡張など経済活動に関心が強く、勝さんの要請に正面から向き合うことは無かったといえます。

平成14年4月の東行庵の常任世話人会で代表役員は「法人は晋作を祭るお寺で高杉家を祭るお寺じゃない。歴史研究の方に傾き危惧している」と発言。7月の世話人会で世話人の一人が「勝さんの改善要求の再考を」と求めると代表役員は「金が無いからしようがない。勝氏が東行庵を信用できないのなら、好きにさせようがない」と述べ史料を高杉家へ返還することと記念館の閉鎖を決めたのです。このことは、高杉勝さんと代表役員の確執となりました。

平成15年2月、勝さんは晋作史料を東行庵から引き上げ、萩市の萩博物館に寄託替えしたのです。東行庵の代表役員らは、記者会見で「東行庵は墓所を守るのが一番で、史料の研究や展示をすることではない」と寄託替えも意に介さない発言をし、マスコミの輿論を買ったのですが、経緯を知らない下関市民にとっては、理解できない事態だったと思われれます。「なぜ手放すのだ」といった声があがり、代表役員らは、ここで初めて事の重大さに気づかされたのです。

史料が萩市に寄託されてから3年半が経過した平成19年、東行庵

は住職が交代していたこともあって、高杉家に対して史料の移管要求を声高に始めました。それまで史料の引き上げに同意していた同じ代表役員が、今度は「高杉家が東行庵の史料を勝手に持ち出した」、「萩市はこれを手引きした」と言い出したのです。

勝さんは、東行庵の「史料を返還せよ」という度重なる強訴と萩博物館の「寄託はこのままで」という要請の板狭みで、長い心痛の日々を過す事になりました。

◆東行庵、萩市、下関市の三者会談

東行庵はその後下関市に働きかけ、下関市ともども勝さんへの説得を強めたと思われれます。

平成20年5月、高杉勝さんは萩市に「萩博物館への寄託を解除して東行庵へ寄託替えしたい。7月に東行庵で歴代庵主の法要があり、それまでに史料を旧に復したい」とし、「思いを定めた前提として江島潔下関市長が上京して、①東行記念館を市営にする。②学芸員を設ける。③設備は7月までに改善する。と告げられた」ことを挙げ、「実行が担保されたわけではないが、諸々考えをめぐらせ、次善の策と思いたい気持ちです」という心情を吐露しました。勝さんにとっては、まさに苦衷の選択だったと思われれます。



高杉晋作 1839~1867

高杉晋作は、萩藩の士族として活躍し、幕末の志士として知られる。1867年に没した。墓所は下関市にある。

萩市は、「博物館での管理に何ら問題は無く、東行庵が前提条件をクリアしていない段階でのこの提示はいかがなものか。個別の話では思惑が絡み話が前に進まない」ので「東行庵」「萩市」「下関市」の三者で話をしたらどうでしょう」と提案すると、勝さんは「萩市に主導してほしい」と逆要請しました。

それで、平成20年6月、下関市で三者会談が行われました。東行庵は、「一括東行庵に寄贈してもらい、そのあと萩博物館に寄託する」と主張。萩市は、「萩関係の69点は、従来どおり高杉家から直接寄託を受けたい」と主張して紛糾、結局、話し合いは継続となりました。

しかし、東行庵は、7月の歴代庵主の慰霊祭で、「晋作の遺品240点が東行庵に返還されます。萩市も了解しています。期日を協議中です。」と発表し、不誠実さを露にしました。

第2回の三者会談は、平成20年9月に開かれました。萩市が、「現行どおり69点の分割寄託」を主張したのに対し、東行庵は、「一括返還は譲れない。もともと東行庵の所有である」と主張、話し合いは激高含みに平行線で推移しました。ここで下関市長が妥協案を提示、「下関市で晋作展を開催する。

その企画展に資料240点を下関市が借り受け、企画展終了後に69点は萩市に、その他は東行庵に移送する」というものでした。

萩市は、「おかしな話だが、69点は現行どおり」として了解。このあと記者会見を行い、三者は求めに応じてこやかに握手を交わしました。

東行庵の住職は満面の笑みで「合意が出来て嬉しい。晋作さんも喜んでくれるでしょう」と記者に答えていました。

それにもかかわらず、後日「三者の合意覚書」に署名捺印をする段階で、東行庵は、これを拒否したのです。結局、解決に至らない不安定な形で、史料は萩市と東行庵に分割実効支配されました。

余談を記せば、下関市では、晋作記念館を市営にするに当たって、所有権を明確にし、所有者からの寄託手続きは欠かせないと、市議会が紛糾していたのです。それで東行庵は、勝さんに強い攻勢をかけていました。

◆東行庵 提訴

歴史の一ページには、さらに悲しい事実が記載されます。平成22年3月、東行庵は、あろうことか晋作の曾孫高杉勝さんと萩市を訴えたのです。「晋作の遺品69点の所有権は東行庵にある、返還せよ」と。裁判は、前述のように山口地

裁、広島高裁ともに高杉勝さんと萩市が勝訴しました。

しかし、勝訴の報を聞くことなく勝さんは、審理中の平成22年11月10日に急逝したのです。もの道理のわからない人たちが相手に、長い間心痛し疲れたのが遠因と思われる。

勝さんは、平成21年9月の書簡で「今回の騒動は私にとって、田舎の頑迷な古老とその取り巻きなど地方自治体のお宝分捕り合戦などではなく、自家の文化遺産を可能な限り長く保存し、もって如何に社会的な活用を図るか、の決断を迫られる正念場です」と心情を記しています。

また「個人的な意思に左右されない公的機関で、安定的に未永く晋作の顕彰を続けたい。そのためには、史料は寄贈して構わない」と常々口にしていました。

平成21年の晩秋、勝さんと東京・吉祥寺の喫茶店でお会いした際、勝さんは「東行庵との縁はとても深く、今も変わらぬ気持ちなので

す。本来東行庵と争う気はないのです。気持ちがあけない役員とは争っていますが、この辺の機微は、到底第三者には理解できないでしょう」「当時の庵主谷玉仙は私の家から学校に通い私とは姉弟のように過ぎた人でしたから、史料を渡す時もごく自然で寄贈たとか寄託たとか言うこともなく、何の

気がかりもありませんでした。そうした気持ちの流れの中で、下関の江島市長が間に入った時、事を円満に解決したいと「所有権のことは棚上げにして」と口にしたのですが、それが失敗でした。わかずやが、それを逆手にとって攻めているのです」と残念を口にしていました。

◆高杉勝さんの心情

勝さんは、絵を描くことが趣味の温厚な紳士ですが、訴状の「記念館休業の損害賠償金300万円を支払え」との一行は、余程心外だったと思われ「今まで、奴等に多少の理解を持っておりましたが、300万円払えの一句に怒り心頭に発しております。当方の精神的苦痛」に3億円を要求したいくらいですのに！」と尋常でない憤りを強い語調で書き送ってきた。

東行庵は二審では、この部分を取り下げました。筆者は思います。高杉勝さんは、東行庵と萩市のどちらにも恩義と責任を感じ、史料は一括保管でありたいと願ひ、東行庵の面々は考えたいが代表役員は絶対許さないといい、萩市の理も充分理解できるといい、心は揺れにゆれたと思われ。

生前、勝さんは、歴史の重みを理解できない東行庵の人たちが、礼節を欠いた言動に終始したこと

への憤り、常識が通じない無念、高杉家の誇りを傷つけられた無念を、噛み締めていました。

ことの真相は、高杉勝さんと東行庵の代表役員の信頼関係の崩壊が最大の原因で、それは、晋作史料に対する代表役員の見識の欠如に起因すると思います。

◆晋作のこころ

思い起こすに、晋作が亡くなる年（慶応3年、1867）の年初、病の回復が見込めない死の床にあって、父小忠太に送った最後の便りに「懸念はご無用に。蒸気船の便を求めたく相期し候。萩へ罷り越し候好使これあり次第、突然帰省の覚悟にごさ候」と強い望郷の念を綴っています。晋作の活躍の舞台は下関。しかし、晋作の心にはいつも萩の風景があり、どちらも大切な土地だったと思えます。晋作に心寄せるものにとつて、心に沁みることがらです。

（高木正照 エッセイスト 日本ペンクラブ会員）



萩博物館の高杉晋作資料室

波多野 篤さん
あつし(萩市浜崎町出身 埼玉県在住
萩工業高校昭和43年卒、62歳)

中国大連

日中交流、個人レベルでの
絆を大切に育み、強固にし、
広げていきたい

私の近況

中国は、私の両親が戦前、生活体験を持っていた土地であり、以前から興味をもっていた国ですが、1984年11月、初めて中国の大地を踏みしめたとき、大きな感動を覚え、それが、それ以降の自分の生き方に少なからず影響を与えたようです。

帰国後すぐに、中国語会話教室に通い始め、川口市日中友好協会にも入会しました。その当時は、株式会社山城精機製作所の東京営業所で機械の販売、メンテナンス等の仕事に従事していましたが、それ以降、自分から志願して中国への出張機会を増やして行きました。

やがて、上海浜田機械製造有限公司という現地企業との出会いをきっかけに国内で浜田機械製造(株)という会社を自分で興しました。株式会社山城精機製作所に在職時に蓄積した知識、経験、技能、人脈を糧として、中国では、日系企業の生産立ち上げのお手伝い等の仕事を始める事で中国との関係を深めていくこととなりました。

国内では、萩に工場を持つ鶴惣工業(株)のグループ会社の(株)広島山大が外国人技能実習制度を活用し、中国人の実習生を採用されていますので、実習生達との潤滑油の役割の一端を担わせていただいています。東京では、(有)ケイエヌエス

五十嵐で営業面でのお手伝いを行なう等プラスチック関連の業務を行なっていますが、昨年は関東の某私立大学から、埼玉県内の企業の若い方を対象にした中国でのビジネス経験を話す機会をいただきました。

尖閣諸島問題に端を発した日中の対立は、民間交流にも大きな動揺と影響を与えています。日中は隣国同士、切っても切れない間柄相互に理解、尊重し、発展し、成果を享受しあう事が最も求められる関係だと思っています。

このような状態の中で、自分のできることは、個人レベルでの絆を大切に育み、強固にし、広げていくことを泥臭く、着実に進めることだと思っています。

萩の思い出

浜崎生まれの私としては住吉神社のお祭りが、思い出としては強烈で、住吉神社の境内にサーカスのテントが建ち始め、やがて象やライオンが姿を見せると、それを日がな一日眺めることが唯一私の小学生時代の楽しみでした。

私が萩から巣立つとき、父が、萩のことを忘れないようにと書いて、萩中時代に友人達と唄っていたという「男なら」の替え歌、お国なら(作者不詳)を唄って聞かせてくれました。内容的にはちよつと首を傾げたくなる表現も

ありますが、紹介したいと思いません。歌詞について、父もうる覚えかも知れませんが、私にとつては貴重な思い出です。

「お国なら、思い出します、いまに、ねえま、おのしゃ、あのそに、おらはこのそ、おつばいしゃんすな、いけんちゃあ、いんだらおかかにゆうちやげる、ちゅうにごつぼうこりやさばけん、山のずつてんこにカラスがじょうに來て、たまげてにげたげな、そうじゃないか、そうじゃのんた」

関東在住の明倫小学校の同級生、4部6年2組のメンバー6人で年に数回集まって、萩弁を駆使し賑やかに交流しています。今の萩弁がどのように変化しているか、遠く離れた関東に暮らしているため、知る由もありませんが、方言も大事な文化の一つとして、大事にして欲しいですね。

■プロフィール

1950年(昭和25)2月萩市浜崎町生まれ、住之江保育園、明倫小、明経中卒。萩工業高等学校卒業後(昭和43年、土木)、広島(株)極東工業に入社。退職後、上京しアルバイト生活を続けながら明治大学二部文学部史学地理学科を卒業、76年(株)山城精機製作所に入社。退職後、2006年浜田機械製造(株)を興し現在に至る。川口市日中友好協会理事、埼玉県和光市在住。

大人の
ごちそう

周 Shu

福岡市



長岡周吾さん(左)

長岡 周吾 さん (萩市越ヶ浜出身、35歳)



カウンター6席、テーブル10席



夏野菜の
ジュレ鍋

**萩の食材、萩焼の器、萩の
日本酒で待つてます**

野菜を使った珍珠でお酒が楽しめる和食屋です。萩の地酒「東洋美人」をメイン酒として、試飲会を定期的に開いています。萩の漁師さんから直接「あまだい」を主に仕入れていきます。そして「釜揚げシラス」、旬の時だけ越ヶ浜の加工場でできたものをすぐに送ってもらいます。

お勧めメニューは、「熟成セロリみそ」、「自家製からすみ」、「レンコンもちのコーラゲンおでん」。

海外で和食のすばらしさに

高校卒業後から1年半、英語の勉強をしながら海外を放浪しました。世界にはいろんな人たちがいて、自分の価値観が壊され毎日が興奮の日々でした。帰国して板前の世界に入ったのは、海外で和食の可能性と素晴らしさに気付いたからです。

福岡を中心に修業していましたが、食材にも恵まれたこの地で日本料理を発信したいと思いました。福岡で独立して3年目、萩出身の方々にも少しずつ知っていただき、いろんな世代の先輩方に来店いただいております。カウンター越しに地元話で杯をかわすのは本当に楽しい時間です。

部活に全力

越ヶ浜出身で、バスケット部で汗を流しました。部活仲間と過ごした時間は、一番の社会勉強でした。恩師の田中信用先生のもとで練習し、先輩・後輩と笑い、試合で泣いたり、部活帰りに語ったり、100%全力疾走でした。今思うと、あの時に人生どうやって生きていくのか、一つの方角が分かった気がしました。勉強はしていません、部活引退後は遊びに精を出しました。

萩の海は見飽きない

今は妻と娘を連れて、越ヶ浜の海で遊んだり、笠山から夕陽を見たり、萩高近くの城下町のカフェで思い出話が止まりません。18年間育ったこの町は、本当に「ふるさと」なんだと思います。天気の良い日、萩の海の水面のキ

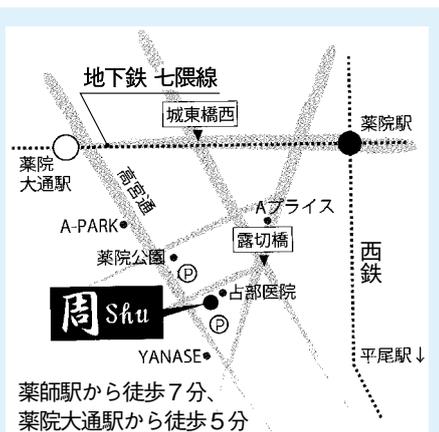
ラキラは、ズーと見飽きることはありませんね。
将来は海外に

今後は「日本料理」をテーマに、海外に可能性を拡げます。世界中の人に和食を伝えたいと思っています。その中で萩の食材、酒人々の力を借りたいと本気で思いますが、まずは気軽に飲みに来てください。萩焼の器でお待ちしています。

プロフィール

1977年(昭和52)生まれ、越ヶ浜小・中学校卒。96年(平成8)萩高卒業後、オーストラリア、東南アジアなど海外へ。99年にホテルオークラ・アムステルダム(和食)に就職(ヨーロッパでも仕事)。

2003年に割烹 味美(博多、中洲)に就職。10年に独立開業。



大人の「ごちそう」周

〒810-0022
福岡市中央区薬院3-7-27
☎092・406・9181
営業時間/17:00~24:00
定休日/月曜日
ランチ/水~土曜日
12:00~13:30(前日までに要予約)

萩ブランド
を守る

むつみ豚

小野靖広さん

やすひろ

(萩市むつみ 35歳)



プロフィール

1977年(昭和52)生まれ、吉部小、むつみ中、96年(平成8)に萩高校を卒業、2000年に九州産業大学を卒業後、大阪の株式会社トランスコスモスに就職、03年から小野養豚を継ぐ



精肉(左から肩ロース、ロース、バラ)

近年、萩市むつみ地域の地産家畜として市内はもとより近郊都市にも販売を広げるとともに、ブランド化を進め、多くの消費者にその名前と味を認知されるようになった萩のブランド豚『むつみ豚』。その生産者である有限会社小野養豚を訪問し、小野靖広さんにお話を聞きました。

農家ではなく ビジネスとして

戦後、養豚がやりだした頃、農家だけでなく多くの人が家畜として豚を飼っていた時代があったと聞きます。このむつみ地域でもそのはやりの中、地域住民が集まり協同経営で養豚業を営んでいました。

その協同経営していた養豚場を祖父・英雄が引き継いだのが小野養豚の前身です。その後、父・俊治が跡を継ぎ、平成元年に有限会社とし、養豚業を農家としてではなく、会社として、ビジネスとして確立しようと、事業拡大に踏み切ったそうです。今ある豚舎も当時、父がコストを抑えるため、自らの手で建てたものです。

電話越しの母の声

祖父、父と続いた養豚場に生まれた私も、幼少の時から、小遣い稼ぎを目的として、堆肥を袋詰め

するなど軽作業の手伝いをしていました。当時は、臭いもキツイし、体力的にもしんどいこの仕事には将来絶対就きたくないと考え、高校卒業後は電子工学系の大学に進学し、大学卒業後は大阪のIT企業に就職しました。

しかし、ちょうど就職した年に父が豚に跳ね飛ばされ骨折し、治療中、父の分まで働いていた母からよく電話がかかってきていました。今振り返っても相当大変だったと思います。そんな母の電話越しの声を聞き、このまま家業を継がず、大阪にいて良いのだろうかと考えようになり、3年この会社で働いたら地元に戻ろうと決心しました。

ブランド化へ

私有家業に就くことで、更に儲けを増やさなくてはと、父は平成7年から始めた精肉販売部門の売上げを上げるため、以前より計画していた生産豚のブランド化へ力を注ぐようになりました。既に精肉販売許可を取得する時には、肉のおいしさを求め、パン製造企業からパンをいただき飼料に配合するようにしていました。

その後、別のパン製造企業からパンを譲り受けるようになってからは配合量を増やし、更に甘味が強まり、霜降りの入った肉となりました。また、病気にかかりやす

い豚の健康維持のため、乳酸菌、酵母、大豆発酵肥料等を与え、安心で安全な豚を生産し出荷し続けることで、『むつみ豚』の価値を高めようと考えました。

むつみトン→むつみバター

父がブランド豚として小野養豚の豚を売り出した当初は名前を「むつみトン」と呼び、グループ系の飲食店に販売していました。その後、見蘭牛のブランド化で成功したミドリヤファームさん(堀内)が弊社をたまたま訪れ、委託販売契約が決まり、ミドリヤさんが「むつみバター」と呼ばれていましたので、そのまま「むつみ豚(バター)」として、販促を開始します。

ミドリヤさんで取り扱っていただけのようになり、むつみ豚の認知度がグングン上がり、ありがたい事に、年々100頭ずつ精肉販売数が増え、年間2000頭生産のうち、現在1400頭を自社で精肉販売させてもらっています。

継ぐでもつみため

今後、精肉販売数を生産数の100%に近づけるようにし、畜産農家から企業へと色を濃くしたいと思います。というのも、畜産業を営む上で一番辛いこと言え、なかなか休みが取れないこと。子どもには跡を継いで欲しいと思いますが、若者が休みが取りづら

2014年
4月

リニューアルオープン!



道の駅阿武町

道の駅発祥地の一つとされる「道の駅阿武町」が、登録20周年を迎えるのを機に、2014年にリニューアルオープンします。延べ約1400㎡の建物で、鹿島湾の絶景を望みながら、ゆったりとお湯につかることができ、温泉を2階に設置、地元食材を使うレストランがあります。物販棟は現在の2倍の約500㎡に増設し、野菜や鮮魚、特産品の品揃えを充実させます。総事業費は約6億円。来年度に工事に取りかかり、2014年4月の完成を目指します。

萩市が「高齢者が住みよい街」18位、「歴女が訪ねたい城下町」7位にランクイン

週刊東洋経済（10月13日号）の特集「日本のいい街2012」の中の「高齢者が住みよい街」ランキングで全国78都市中、萩市が18位になりました。ランキングでは、飲食料品や衣服など生活に密着した小売業の事業所数で1位など、人口当たりの高齢者向け施設の定員65歳以上の就業者比率の評価項目で高く評価されました。その他、「安心・安全な街」で48位、「出産・子育てしやすい街」では105位にランクインしました。



日本経済新聞社Nikkeiプラス1（9月8日付）の「歴女が訪ねたい城下町」ランキングで萩市が7位にランクイン。萩の城下町には、幕末の志士の高杉晋作や木戸孝允の生家もあり、幕末ファン必見の史跡も多数あります。

全日本合唱コンクール 銀賞!!



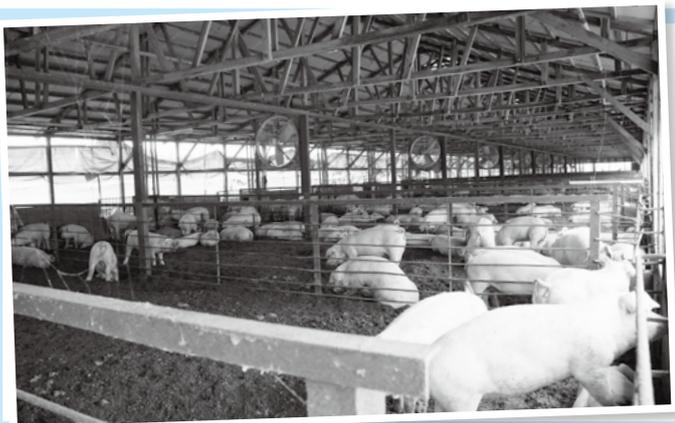
萩高校合唱部

10月27日に鹿児島市民文化ホールで開催された「全日本合唱コンクール全国大会」に、中国5県代表として出場した萩高校合唱部が銀賞を受賞しました。今回は2年ぶり3回目の出場、昨年のNHK全国学校音楽コンクール出場と合わせると3年連続で全国コンクールへの出場という快挙を成し遂げました。顧問の有富美子先生（萩高昭和47年卒）は「今年は男女のバランスが良い。魂のこもった合唱でした」と話しました。

つばき会九州支部 10月20日 八仙閣(福岡市)



4回目となる九州支部総会が博多駅近くの会場で開催され、28人が参加しました。支部長は上村豊さん（商業、昭和43年卒）。全員の近況報告のあと、恒例のビンゴゲーム。長江俊夫さん（工業、34年卒）からは、全員にしたいけのプレゼント。



■有会社 小野養豚
〒758-10305 萩市大字吉部下4704
☎08388-60903
養豚業・豚精肉販売業
年商 1億円
従業員数 10名（正社員7名）

い仕事に就きたいかと考えると... ですので、畜産業がサラリーマンのような労働環境となるには、やはり企業として利益を出すしかありません。そのためには、規模を拡大する日が来るかと思いが、父がそうしたように自らの手で豚舎を建てなくてはと思います。ただ...、働きながら、その時間をどう作っていくか?それが悩みどころです。

夢 追人

作曲家 山本和智さん

(萩市椿東出身、36歳)

講演会で萩の若者に向けてメッセージ!



■プロフィール

1975年萩市椿東松本出身、東京都町田市在住。2009年武満徹作曲賞第2位、10年JFC作曲賞受賞、11年ユルゲンソン国際作曲賞2位を受賞。現在、和光大学非常勤講師。

楽の先生、でした。

小・中学生の頃は、当時はやっ

たファミコンには全く興味は無く、

即興でつくる鼻歌をカセットテー

プに録音したり、譜面を書くこと

が自分にとっての「遊び」でした。

吹奏楽でトランペットを吹く兄

に憧れ、小学校では金管バンドク

ラブに入部。楽譜を無視して、ア

ドリブで演奏していたことが、今

振り返れば作曲の始まりだったと

思います。ピアノ演奏や楽譜の読

み書きはすべて独学で習得。いわ

ゆる「勉強」の成績は悪かったの

ですが、逆に「成績を落とすま

で音楽をやっている」ことに胸を

張っていました。

衝撃の現代音楽との出会い

現代音楽との出会いは、反抗期

真っ只中の中学生の時、当時カ

セットテープにNHKFMから偶

然録音された黛敏郎の「饗宴」

という作品を聞き、大変なショッ

クを受けました。現代音楽は当時

の自分にとっての「ロック」。ヘッ

ドホンを付けて頭をふりながら聞

いていました。

高校卒業後は現在講師を務める

和光大学文学部に進学。東京に上

京したことで、自分が今まで見た

こともないものと出会い、これま

で知っていた現代音楽の世界がい

かに狭いものだったか思い知らさ

れました。

大学卒業時はちょうど就職氷河

期と言われていた時代で、自分も

きちんとした就職はせず、塾の講

師のアルバイトをしながら、作曲

活動を続けていました。この頃か

ら、「作曲家としてやっていくに

はキャリアが必要だ」と考えるよ

うになり、国内の作曲賞に応募す

るも、ことごとく落選。受賞には

音大卒業者のようなバックボーン

がいかに重要であるか思い知ら

され、20代後半は不安な日々を過

ごしました。

そんな時、大学時代の友人から

聞いたナンパの話から教訓

を得ることができました。それ

は、「何百人、何千人と声をかけ

救ったのは友人のナンパの話

て、そのうちの一人とても食事に

行けたらその日は勝ち」というも

ので、当時の自分には「目からウ

ロコ」でした。「1度、2度失敗

したからといって、振り向かず

次に行け。その1年に1つでも賞

が獲れたらその年は勝ちだ」と。

それを機に作曲数は飛躍的に増

え始め、海外の作曲賞で賞がとれ

るようになると、演奏される機会

も増え、次第に日本でも知られる

ようになりました。

現代音楽はまさに「新しい価

値を見出し出すもの」。

私の公演では、合唱

をしている歌手の口

にホースをくわえさ

せたり、扇風機を

萩の若者へ言いたいこと

くまとまるんじゃないねえ！」と喝を

入れます。若い人が元気な社会が

健全な社会であり、萩の若い人た

ちは、中途半端な感じがします。

もう少し思い切つてやったら新し

いことができると思う。

萩は明治維新の中心となった都

市。自分たちがいるのは特別な場

所だと思つた方がいい。歴史に頼

らずどんどん新しいことをやって

ほしい。

また、自分自身も、作曲家とし

て萩と関わりたい。いつか新しい

楽器を作り、好きな萩の民謡「お

船謡」を演奏したいです。

値を見出し出すもの」。

私の公演では、合唱

をしている歌手の口

にホースをくわえさ

せたり、扇風機を

演奏したりで、「怒

られる」ことはしば

しば、出入り禁止に

なったホールもあり

ます。

普段、大学の学生

に対してよく「小さ

き

い

い

い

い

い

い

い

今後の公演予定

清水友美ソロリサイタル

「21世紀から見るビートルズ~ビートルズを素材とした現代ピアノ作品」

国内外で活躍する気鋭の現代音楽作曲家15人が作曲。

□東京公演

とき 11月17日(土)午後7時~

ところ デザインKホール六本木(東京都港区六本木)

□大阪公演

とき 平成25年1月27日(日)午後1時~

ところ デザインKホール大阪(大阪市中央区北久宝寺町)

■チケット問い合わせ

0120・54・0505



2012.1.18 東京渋谷で行われた「TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL」
箏奏者 日原史絵

人追 夢 坂倉 中う子さん (萩市呉服町出身、25歳)

京都で人気芸妓「つね桃」として活躍!

京都「繁の家」の芸妓(げいこ) つね桃さんが、10月1日〜8日に行われた「着物ウィークin萩」参加のため、帰萩しました。

つね桃さんは、15歳で京都の御茶屋に入り、16歳で舞妓(まいこ)デビュー、10年目を迎えた現在は、芸妓として活躍されています。

14歳の決意「舞妓になりたい」

つね桃さん(本名 坂倉ゆう子)は1987年(昭和62)生まれ、実家は飲食店「わらじ」(呉服町)を営み、3人姉弟の長女として育ちました。明倫小学校ではローラースケートクラブ、萩西中学校

ではソフトボール部に所属し、活発なスポーツ少女でした。

突然の転機は中学3年生の修学旅行で京都を訪れた時、舞妓さんの姿を目にし、「私も毎日この格好をしたい」と舞妓になることを決意します。しかし、商売を営む両親は萩商業高校への進学を望んでおり、話しても全く相手にしてもらえなかったといいます。それでも舞妓への夢をあきらめきれなかつたつね桃さんの姿を見ていた両親は、「公立と私立の両方の高校に合格できれば」との条件を課しました。夢のために努力したつね桃さんは、見事その課題をク

リア。合格発表の後、3月には一人京都へと旅立ちました。

毎日がお稽古

とはいえ、これまで、踊りも三味線も着物の着付けさえ経験が無く、それ以前に毎日の日常生活自体が初めてのことばかりだったつね桃さんにとって、京都での生活すべてが「お稽古」でした。

「例えば、シャンブーは週に1度しかできません。それまで毎日シャンブーをしていた私にとって、信じられないことでした。また、就寝の際に使う枕は高枕。お姉さん(同じ部屋の先輩)に枕を借りて、「寝る練習」をするのですが、慣れないうちは、耳がうっ血することもありました。銭湯に行けばまずお姉さんの体を流す、着付けのお手伝いをさせてもらう、お姉さん方のお稽古が終わるまで何時間も正座で過ごす日々。しかし、このような日常生活での気配りや神経の使い方の積み重ねがすべて後のお座敷でのお作法につながっていました」。

また、それ以前に問題だったのが、その見た目(外見)でした。「中学時代ソフトボール部に所属していたこともあり、当時の私は髪は短髪、肌も小麦色、肩には筋肉もついていました。芸のことを除いても、髪が結べる長さになるまでデビューはできないと、おみさんから言われていました」。

約1年間のお稽古を積み、翌年の3月3日、16歳で晴れて舞妓としてデビューします。

デビューして10年を振り返る

22歳を前に晴れて芸妓となったつね桃さんは、今年、舞妓デビューから10年を迎えました。

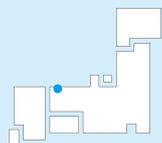
「今の私を育ててくれたのは、御茶屋のおかみさんやお姉さん、またお座敷のお客さんのおかげです。一番大変だったのは体調管理。これまでの10年間で寝込んだのは過去1回だけ。39度の熱を出して舞台に立ったこともあります」。



最後に、故郷萩への思いを。「私の姿を見て、両親の喜ぶ顔が見れることが何よりうれしい。また、萩で応援してくれる方がいるからこそ、今回のように萩に帰ることができたり、イベントを企画していただくことができます」と笑顔で話しました。

着物ウィーク・フェアウエルパーティで舞を披露

中学修学旅行の坂倉さん(左)



「クラス会をいつ、どこで開催します」という情報をお寄せください。萩の資料送ります。萩商工同期会の投稿記事も歓迎します。hagi-network@city.hagi.lg.jp



会員投稿



10月14日

萩高 9 期(昭和32年卒)

卒業55周年

リハビリ同窓会 千春楽(萩市)

73、74歳のオジンオバンが全国から67人、ふるさと萩に集合。元気に飲み、食べ、歌い、オジンオバンパワーを発揮した。

何も知らされず、萩城内の城山窯に降ろされ、リハビリ教室が始まった。エプロンを当て、かわいい?姿で、粘度を思い思いにこね、子どものように夢中になって、個性ある力作?に満足顔だった。なかには来年の干支を見事に完成させていた。

卒業後(八八会を期に)、40年間淡江清元会長、山本貞壽会長の号令のもとに40、50人は集まっているが、5年ごとに全国430人に発信し、今年で8回目を迎えた。話は尽きず、50人近く



が2次会に参加し、深夜まで盛り上がっていた。5年後の60周年を約束して別れを惜しんだ。

ちなみに、今年度の今一つのテーマは「日本の明日を拓いた人々」と題し、萩が輩出した松陰先生の門下生を学び、萩人の誇りとして多くの人々に発信しようだった。業績を冊子にして持ち帰ってもらった。
陽 信孝(萩市椿金谷)

会員投稿



9月15日

萩高 16 期(昭和39年卒)

同期会 2012 萩本陣(萩市)

4年ごとのオリンピック開催の年に開催している16期同期会(昭和39年卒)を本年も実施しました。74人の参加者を迎え、実行副委員長、仁保優子さんの開式の辞で始まりました。

次に、物故者(男性20人、女性11人)に黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。校歌を3番まで合唱し、高校時代を懐かしく楽しめました。実行委員長の伊藤久雄君が開催までの準備、今後の開催について等の挨拶をしました。乾杯の音頭は遠方から参加された、川瀬正臣君(東京都)の発声により、声高らかに全員で唱和し交流を始めました。およそ2時間ぐらいいお互いの身辺の変



化、高校時代の話等、懐かしく語り合い楽しい時間を過ごしました。終わりに「今日の日はさよなら」の歌を円陣を組んで合唱し、次回の再開を約束しました。最後に、本会を代表して山本惺史君の一本締めで閉会しました。開会后、約60人が2次会に行き、カラオケ、ダンス等大変楽しい同期会でした。

事務局 柴田真治(萩市川上)

会員投稿



9月1日

萩高 22 期(昭和45年卒)
還暦同期会

萩本陣(萩市)

オリンピックイヤーに開催している萩高22期同期会(昭和45年卒、会長 米原祥三)。今回は、還暦同期会と節目の年になりました。北は新潟県、南は宮崎県からと多くの同期生がかけつけ、最近では最高の103人が集まりました。

懐かしい顔、顔、顔、卒業以来の顔もあり、つもる話に花を咲かせ、用意したイベントもそこそこに、多くの時間を歓談で過ごしました。



限られた時間はあっという間に過ぎ、次回4年後の再会を誓い、別れを惜しみつつ成功裏に閉会しました。参加できなかった多くの同期生からも協賛金をいただき、皆で今回の記念に、来春、桜の苗木を陶芸の村公園近くの丘に植えることにしました。同期生で帰省される方は是非行って見てください。

事務局 和田稔(萩市無田ヶ原)

10月に開催された第66回山口県美術展覧会で、452点の出品の中から、萩市の御台場窯(明木) 渋谷英一さん(椿、33歳)の「黒彩器」、陶華山 松尾藻風

窯(椿沖原) 松尾優子さん(江向、34歳)の「青磁壺」が優秀賞に選ばれました。渋谷さんは昨年の佳作に続き2年連続入賞、松尾さんは今回が初入賞です。



「黒彩器」 渋谷英一
(萩工業高 平成10年卒)

【作品評】焼成というハードルをくぐり抜けた爽快感がフォルムの美しさに表れ、震災後、個人の無力さが自覚される昨今、それでも立ち上がる存在の強さ、そのようなものを示す優品。ビジュアル・アートとして、ひととき自立性の高い作品。

■渋谷さんコメント

「昨年佳作をいただいた黒彩器のシリーズで造形的にも技術面でもクオリティを上げて挑戦し、上の賞をいただけて大変うれし。



「青磁壺」 松尾優子
(萩光塩学院 平成9年卒)

【作品評】クラシカルな青磁とは全く違った、透明感のある淡く明るいブルーの釉調を示して新鮮。日々の淡々とした修練の先にしか実現しない、ミニマムな造形の純粋性を貫いた完成度の高い作品。

■松尾さんコメント

「花を生けた時、空のように澄んだ青と花の美しさが引き立て合い、一つの生け花作品となることをイメージして作りました」。

35 吉田松陰と旅



海原徹(京都大学名誉教授)
6000円

幕末の思想家吉田松陰は、単なる書齋の読書人ではなく、九州への旅を皮切りに、北は津軽半島の龍飛崎(たつびさき)に至るまでの、ほとんど全国を巡り歩いた行動の人でもあった。松陰が旅に求めた「発動の機」とは、果たして何だったのだろうか。

著者は「旅の空で松陰は一体何を感じ、何を学ぶことができたのだろうか」と問いかけつつ、松陰の思想の転生の軌跡をたどってゆく。



■海原徹

1936年(昭和11) 山口県生まれ。京都大学卒、京都大学教授を経て1999年停年退官、京都大学名誉教授。著書「松下村塾の人びと」、「江戸の旅人・吉田松陰」(ミネルヴァ書房)ほか多数。

ブックレットシリーズ 萩ものがたり

10月新刊

申し込み

一般社団法人萩ものがたり事務局
(0838・25・3233)

36 至誠の人 杉道助



大野綱之(元読売新聞記者)
6000円

戦後の混乱期に大阪商工会議所会頭に就任、14年の長きにわたり名会頭の名をほしいままにした杉。その功績は、大阪を天下の台所として繁栄に導いた豊臣秀吉になぞらえ、昭和の太閤とも称せられるほど。

最盛時の肩書きは200を超えた。それだけ人望厚く、頼り甲斐があった。就職から金融のあつせん、寄付金集めに後援会の代表。なんでも引き受けた。しかも誠意をもって。生涯のバックボーンは松陰の遺訓ともいうべき「至誠」だった。



■大野綱之

1938年(昭和13) 萩市生まれ。萩高校(昭和32年卒)から早稲田大学へ。1963年(昭和38)、読売新聞大阪本社入社。編集局政経部などを経て、1992年(平成4)、日本テレビ系の広島テレビ放送へ移籍。2002年退社。奈良市在住。

情報アラカルト

関東地区

■東京須佐弥富会

関東地区の須佐地域同郷会。

11月17日(土) 正午～

東京都港区高輪4・10・56 日立
金属 高輪和彊館

(090・2208・5873) 勝山

■兼田知明ぐい呑み展

11月7日(水) まで

栃木県芳賀郡益子町益子4264
つかもと作家館ギャラリー

(0285・72・6634)

■アンテナショップフェスティバル

夏みかん菓子や井上商店のしそ
わかめ等を販売。

11月2日(金)～4日(日) 午前
10時30分～午後6時30分(4日は
午後6時まで)

東京都港区南青山5・4・41
ふくい南青山291

(問) 山口県東京事務所

(03・3502・3355)

■農林水産祭 実りのフェスティバル

萩の各種かまぼこや井上商店、
広松、相八商店の海産物等を販売。

11月10日(土)、11日(日) 午前
10時～午後4時

東京都千代田区 日比谷公園
(問) 山口県流通企画室

(問) 山口県流通企画室

(0833・9333・3556)

■アイフンダー2012

全国の島々が集まる祭典。萩諸
島から、見島のウニ瓶詰、大島の
いももち、相島のさつまいも、櫃
島のたまねぎ等を販売。

11月24日(土)、25日(日) 午前
10時～午後6時(25日は午後5時
まで)

東京都豊島区池袋 池袋サンシャ
インシティ文化会館 3階展示
ホールC
(問) 実行委員会
(03・6822・9246)

■濱中史朗 個展 (陶芸)

12月15日(土)～23日(日・祝)

午後1時～6時
東京都港区元麻布3・12・46

さる山(03・3401・5935)

■おいでませ山口館イベント

「年末大売り出し」

おせち用のかまぼこや正月用の
酒等、萩からも出品。

12月下旬
東京都中央区日本橋2・3・4
日本橋プラザビル1階
(03・3231・1863)

■山口フェア

忠小兵衛のかまぼこ等が販売さ
れます。

平成25年1月17日(木)～23日(水)
東京都豊島区西池袋 東武百貨店

池袋店(03・3981・2211)

造1

■三輪壽雪・休雪展 | 破格の創

平成25年1月19日(土)～3月31
日(日)

東京都港区虎ノ門4・1・35西久
保ビル 菊池寛実記念 智美術館
(03・5733・5131)

関西地区

■萩同郷会 (関西)

4年に1度、関西在住の萩出身
者の同郷会。

11月4日(日) 午後2時～5時
大阪市北区芝田2・4・53
大阪弥生会館(大阪駅北口)
(06・6458・6008) 中山

■濱中史朗 個展

11月22日(木)～12月8日(土)

午前11時～午後7時(日・月曜日、
祝日定休)
京都市下京区西側町483 1F
T.G.Kセラミック
小山登美夫ギャラリー京都
(075・353・9994)

■岡田泰 作陶展

11月27日(火)～12月10日(月)

大阪府八尾市光町2・60
西武八尾店 6階美術画廊
(072・997・0111)

■岡田泰 作陶展

12月18日(火)～24日(月・祝)

大阪府高槻市白梅町4・1
西武高槻店 3階美術画廊
(072・683・0111)

中国地区

■濱中孝子 個展 (ジュエリー)

jewelry collection - the air - (仮)

11月23日(金祝)～12月5日(水)
正午～午後7時
島根県松江市白濁本町33 出雲ビ
ル4階 SOUKA
(0852・27・0933)

■金子司展 (陶芸)

12月20日(木)～26日(水)

広島市中区胡町6・26
福屋八丁堀本店 7階ギャラリー
101
(082・246・6111)

山口県関係

■つばき会下関支部・巴城会総会

下関地区の萩商工、萩高の合同
同窓会。

11月22日(木) 午後6時30分～
下関市彦島西山町南風泊 漁港活
魚センター
(090・4652・5028) 原

■器展 (6人展)

兼田知明の作品が展示されます。

11月15日(木)～21日(水)
周南市銀座2・14
近鉄松下百貨店
(0834・21・5000)

■萩焼次代の息吹 萩焼精鋭作家

12人展

玉村信一、兼田知明、岡田泰、
厚東孝明、松野創平の作品が展示
されます。

11月28日(水)～12月3日(月)
山口市中市町3・3
井筒屋 5階美術ギャラリー
(083・902・1111)

■Azul 山口のアーティストたち

の青

金子司の作品が展示されます。
12月1日(土)～25日(火)
長門市仙崎818・1
ルネッサ長門
(0837・26・6001)

■備前・萩二人展

兼田知明の作品が展示されます。
平成25年1月2日(水)～8日(火)
山口市中市町3・3
井筒屋 5階美術ギャラリー
(083・902・1111)

第59回日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、岡田泰、兼
田佳炎、玉村登陽、野坂和左の
作品が入選しました。

◆金沢展 11月4日(日) 石
川県立美術館

◆仙台展 11月9日(金) 14
日(水) 仙台三越

◆岡山展 11月22日(木) 12
月9日(日) 岡山県立美術館

◆松江展 12月12日(水) 25
日(火) 島根県立美術館

◆高松展 1月2日(水) 20
日(日) 香川県立ミュージアム
立美術館

11月28日(水)～12月3日(月)
山口市中市町3・3
井筒屋 5階美術ギャラリー
(083・902・1111)

11月28日(水)～12月3日(月)

萩市関係

■萩焼きやらりい彩陶庵の企画展
○戸嶋由香展(銅版画)

萩市出身の銅版画家、戸嶋由香さん(萩工業高昭和57年卒)の萩市での初の個展。戸嶋さんは平安古出身で現在東京都在住、山口県美展優秀賞や日本版画協会展奨励賞等を受賞しています。

11月30日(金)〜12月9日(日)
萩市呉服町1・3 彩陶庵ロフト
(0838・25・3110)



[Maze on the table]

阿武町関係

■渡辺真知子コンサート2012
風の中のスマイル in ABU
12月8日(土) 午後6時30分
阿武町民センター文化ホール
全席指定3000円(当日3500円)
(問) 阿武町民センター
(08388・2・2044)

映画・テレビ情報

■「ストロベリーナイト」

萩市出身の俳優、松本実さん(萩高校平成4年卒)が、主演の竹内結子と敵対する刑事(武田鉄矢)に情報を与える役で出演。

平成25年1月26日(土)ロードショー

■NHK正月時代劇「御鏡拝借〜酔いどれ小籾次留書〜」

萩市出身の俳優、松本実さんが、主人公の赤目小籾次(竹中直人)に切りかかる山賊の役で出演。
平成25年1月1日(元日) 午後7時30分〜8時58分
NHK総合テレビ

出版情報

■「幸福な田舎のつくりかた」

「地域の味を育て届ける、トータルプロデュース」と題し、道の駅・萩しーまーとの取り組みを紹介。
価格 1890円
出版社 学芸出版社

■「志士の風雪」品川弥二郎の生涯

山口新聞の連載小説(今年1月1日〜8月19日)の単行本。松下村塾で学び、高杉、久坂らと幕末、維新を駆け抜け、維新後は農協等の信用組合設立に尽力した品川弥二郎の評伝小説。著者は下関市在住の直木賞作家。
価格 1470円

出版社 文藝春秋
■産経新聞 連載小説「高杉晋作 伝紅と白」
関厚夫

産経新聞に10月1日から連載中の小説。著者は同紙文化部の編集委員で著書に「ひとすじの螢火」吉田松陰 人とことば(文春新書)や萩ものがたり「吉田松陰 人とことば」などがあります。本作は「晋作とは何者なのか、どうやって日本が直面した危機の時代を乗り切ったのか」をテーマに晋作や幕末の志士たちに対する

プレゼント

「吉田松陰2013カレンダー」(マシヤマ印刷発行)を3名様。

■応募方法 ハガキに品名、住所氏名、電話番号、近況等を明記のうえ、萩ネットワーク協会プレゼント係まで。11月末日(消印有効)。

11月21日(水)〜27日(火)
東京都中央区銀座4丁目
銀座三越 9階テラスコート
両社の活動紹介や、コラボレーションによる「竹」を素材とした製品を中心に展示販売。
展示内容
・コラボによる新作家具・小物、伊勢谷友介・リバースプロジェクトのデザインオリジナルマウスパッド、花器等
・リバースプロジェクト関連小物
・タケ・クリエイト・ハギのフィンランドデザインによるオリジナル家具(写真)・小物等
■問い合わせ
タケ・クリエイト・ハギ(08388・22・0058)

テイク・リバース (Take REBIRTH)

〜手から手へ継ぎたいモノとコト〜

リバースプロジェクト(REBIRTH PROJECT、伊勢谷友介代表)とタケ・クリエイト・ハギ(TAKE Create Hagi、刀禰勇代表取締役)が、「親から子へ」「地球環境」をテーマに共同で開催するイベント。



竹製オリジナルマウスパッド
「挫折禁止」

デザイン：伊勢谷友介・REBIRTH PROJECT 伊勢谷氏の座右の銘「挫折禁止」の文字を模様。(サイズ：19×17cm) 3,150円(税込み)、数量限定(先着300個)

■問い合わせ
タケ・クリエイト・ハギ(08388・22・0058)

新規(再)加入会員

榑部昭夫さん (福岡県福岡市)
船越正生さん (福岡県福岡市)
鍛冶谷充正さん (福岡県直方市)
白石八重のさん (福岡県苅田町)
長岡周吾さん (福岡県福岡市)
富依絨一さん (兵庫県三木市)
齊藤麗子さん(埼玉県ふじみ野市)
竹中淳さん (東京都中野区)
佐藤民子さん (宮城県登米市)
金野忠さん (北海道幕別町)
原田常代さん (周南市)
伊藤恵子さん (千葉県八千代市)
入江蓉子さん (高根県津和野町)
河上裕美さん (東京都板橋区)
檜垣マツ子さん (山陽小野田市)
宮内千佐子さん (萩市)
飯尾邦夫さん (萩市)

秋田望さん (福岡県福岡市)
百合野富美子さん (山口市)
杉岡数子さん (兵庫県宝塚市)
坂本秀泰さん (萩市)
山中和弘さん (防府市)
吉松伸一郎さん (山口市)
其原義信さん (山口市)
弘忠宣さん (山口市)
田村嘉寿子さん (山口市)
藤田浩義さん (山口市)
上村輝夫さん (山口市)
坂本哲宏さん (山口市)
小枝幹弘さん (福岡県北九州市)
藤木逸章さん (福岡県行橋市)
室谷利雄さん (福岡県北九州市)
松浦雅裕さん (福岡県福岡市)
池田好博さん (福岡県宇美町)
上田那津子さん (萩市)
(8月25日〜10月24日)34人

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

- 11月10日(土)、11日(日) 10:00～16:00
◇萩ふるさとまつり 中央公園
- 11月11日(日) 8:00～17:00
◇萩時代まつり 中央公園 市内各所
- 11月17日(土)～23日(金・祝) 7:00～
◇萩クロマグロトーナメント 見島沖
- 12月1日(土)、2日(日) 9:00～16:00
※2日は15:00まで
◇シクラメンフェア 道の駅「ハビネスふくえ」
- 12月9日(日) 10:00～
◇萩城下町マラソン 市内各所
- 12月15日(土)～1月5日(土) 17:00～
※15日は18:00～
◇萩イルミネフェスタ JR 萩駅前
- 12月27日(木)～31日(月) 9:00～
◇萩・年末お魚市 道の駅「萩シーマート」
- 平成25年1月2日(水) 13:30～
◇萩市成人式 萩市民館大ホール



2012 着物フォトコンテスト グランプリ「秋雨の止む頃に」富岡直士(佐賀市)

萩時代まつり

11月11日(日)

8:00～17:00

萩市内



萩大名行列は、萩市椿の金谷天満宮大祭において江戸時代から続き、平安古備組と古萩町大名行列を合わせて総勢200人を超える大奉納行列。

萩城下町マラソン

12月9日(日)

10:00スタート

萩ウェルネスパーク～城下町



全国のランナーが師走の城下町を駆け抜けます。2km、5km、10km、ハーフがあり、昨年は4000人以上が申し込み。ゲストラナーは長門市出身の油谷繁選手。

紅葉は11月が見ごろ

長門峡



紅葉橋は竜宮淵から徒歩10分

長門峡は大正9年(1920)に萩市出身の高島北海が命名し、大正12年に国指定の名勝となった景勝地。特に秋の紅葉は圧巻で、11月上旬～下旬が見頃。

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

こはぎ
古萩

—江戸の美意識—

12月9日(日)まで

御用窯を中心に製作された江戸時代の萩焼を「古萩」ととらえ、豊かな美意識を紹介。

■休館日 月曜日(12月24日は開館)、12月25日(火)～平成25年1月1日(火)

■常設展示 ▷浮世絵 明治の美人画 楊州周延、雪月花—雪—(12/11～)、▷東洋陶磁の美(釉)、▷陶芸館 記憶の触感—土にこめた想い—、萩焼の近代



萩割高台茶碗(江戸時代前期)

萩博物館だより

☎0838・25・6447

●藤田伝三郎没後100年記念 藤田美術館の名宝

明治財界のリーダー藤田伝三郎が収集した日本を代表する美術品の逸品を一堂に、大阪から萩へ全国初の移動展示。

■年中無休

11月3日(土・祝)～12月9日(日)



交趾大亀香合(藤田美術館蔵)

●企画展

コマーシャル100年in萩 12月22日(土)～平成25年4月7日(日)
—城下町近代化の歩み—